

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.33 2016.11.2
TEL71-2466

日本の伝統文化を大事にしよう

9月27日の午後7時、豊科公民館で、講義「海外(中南米)から見た日本人」と題して、本年2回目となる「夕涼みセミナー」が行われた。講師は、堀金在住の工藤元彦さん。元GACメキシコの社長で、定年後は国際協力機構(JICA)のシニアボランティアとして、中南米のコスタリカとチリでそれぞれ2年間ずつ勤務された。大会議室には用意された椅子が足りなくなるほど、大勢の方々が参加した。



工藤さんは中南米での経験から得られた日本語や日本の伝統文化の素晴らしさを、中南米の親日的な人々の日本人観として「日本人は、技術があり、約束を守り、

きれいな好きで礼儀正しく優秀。日本の文化は素晴らしい(空手、剣道、柔道、華道、茶道、俳句、歌舞伎など)」と紹介された。

中南米では、日本語や俳句、書道が盛んだそうで、主語や複数形がないところや、風景や情景が浮かんでくるのは日本語ならではの素晴らしさである。小学生から英語を学ぶのも良いが、まずは日本語を徹底的に学び、読書をし表現する力をつけることが大事ではないかと話された。

JICA時代には、研修で現地の人々と日本を訪問。全国各地の工場見学とともに広島や京都を観光し、日本の伝統文化に触れ、その大切さを再確認。改めて、大事にしながら伝えることの重要性を感じたと語った。現在は週に一度の松本城ボランティアガイドを楽しみながら、伝える手段である言語と、伝える内容を日々考えているとのこと。会場から多くの質問が出され、日本語や伝統文化、また中南米に対する意識の高さが感じられる時間となった。

中房川トレッキング

9月10日、穂高公民館が主催する「河川の自然観察会」が中房川河川敷にて行われた。講師の吉田利男さん(NPO法人川の自然と文化研究所理事長)は出発にあたり「川の流れて沿って環境や生態系が変化していく様子を見てほしい」と語った。

一行は、有明山神社にて参拝を済ませた後、中房川上流から中流にかけて4カ所で観察を行った。大王橋付近では3メートル近い巨岩が目立ち、水温は13度を記録。清流にすむといわれるカワゲラなどが採取された。場所を移り採集に夢中になるにつれ、川原の思い出話に花が咲

拾ヶ堰の流れを見つめて

堀金公民館は8月28日、開削200年の拾ヶ堰流域視察の「ふるさと常念の里講座・拾ヶ堰めぐり」を開催した。百瀬新治さん(豊科郷土博物館館長)と、青柳和義さん(拾ヶ堰土地改良区事務局)を講師に座学と現地学習で郷土の命運をかけた大事業の軌跡を追いかけた。

拾ヶ堰の流量管理

拾ヶ堰の取水口である頭首工は、以前まで導流堤という自然流下方式だったが、現在は奈良井川を横断する可動堰になり、ゲート

いた。最後の観察場所「かじかの里公園」付近は川幅が広く緩やかで、水は少し濁っており

水温は19度を記録。ザザムシやカジカの稚魚など上流では見られなかった生物も多く、生態系や環境の変化を体験できた。参加者は「昔懐かしい場所でした。参加者は「昔懐かしい場所でも楽しかった」「川へ来ると子どもの頃遊びに来たことを思い出す」と感想を述べた。「子どもたちが安心して川で遊べる時代がまた来るといい」と、最後に吉田さんは語った。



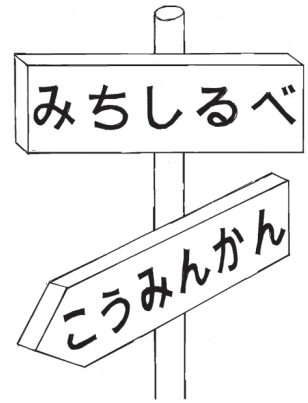
の上げ下げで安定した水量が得られる。頭首工と取水水門の管理は、拾ヶ堰土地改良区が行っており、通常はコンピューターによる自動制御で管理している。

風景保存の文化遺産

拾ヶ堰は、時代を超えて安曇野の今日を築いた文化遺産であるが、いまだに現役の農業施設である。農業環境を守る農業用水路の機能だけでなく「日本の原風景」といわれる安曇野の田園風景を、景観遺産として地域全体で保全に関わる時代が来たといえる。



頭首工



京のおほんさい料理教室

ほたか
9月2日に穂高公民館で2回目の「京のおほんさい料理教室」を開催し、18人が参加した。

旬の食材を無駄なく使い、ひと手間かけておもてなしの料理を作る教室で、講師は、かつて京料理店を営んでいた高瀬美幸さん。「大根の菊花作り、ころ柿の天ぷら、チキンと野菜のクリーム煮」に挑戦した。

「身近な材料でおいしい料理ができた」「少しの時間をかけることでおしゃれなおもてなしの料理になることが分かった」などの感想があり大変好評であった。



ロビーミニコンサート

ほりがね
堀金公民館は9月3日、ロビーミニコンサートを開き50人余りが参加した。市近隣で唱歌や紙芝居、読み聞かせなどの催しを子どもや高齢者向けに開いて活動している「あめんぼの会」の6人が出演した。

新聞紙1枚で「キビノマキビ」を演じる新聞シアターの寸劇や地域の民話「常念坊」の朗読、宮沢賢治の「よだかの星」の紙芝居を披露した。始めに「手のひらを太陽に」中間で「大阪うまいもの歌（長野県バージョン）」終わりに「花は咲く」を会場の人々で合唱した。(東山路)



健康づくり講座「食と健康」

あかしな
9月13日、料理研究家の横山タカ子さんを講師に迎え、「食と健康」をテーマとする健康づくり講座が明科公民館で開催された。

長野県民の長寿の要因は、伝統的な食材や郷土食にあるとし、みそや酢、玄米などの良さと化学調味料の危険性などを、軽妙でユーモアあふれるトークで語った。

北信濃の歴史を訪ねて

三郷公民館は、9月16日にふるさと講座「初秋の北信濃の風物を愛で彼の地の歴史や文化を学ぶ」を開催し、27人が参加した。

中野市で、歌謡曲や童謡の名曲を生み出した同市出身の作曲家、中山晋平の記念館に寄り、馴染みの曲に耳を傾けた。小布施町では、日本画家、中島千波のミュージアムを訪ね、同町の「岩松院」では、葛飾北斎の名画「八方睨み鳳凰図」に、21畳の迫力と色彩を満喫した。



岩松院

みさと

須坂市の「田中本家博物館」を見学し時代の流れを肌で感じた。(東山路)

160人を超える参加者は、熱心に聴き入り、横山さんのレシピによる甘酒、漬物の試食を興味深く味わった。



地区公民館の文化祭

とよしな
飯田地区公民館の文化祭が8月15日に、豊科地域のトップをきって行われた。

絵画、写真、書他に手芸や絵手紙、押絵などのサークル作品、小中学生の絵や工作など約100点が広間にきれいに展示されていた。また、8月28日には下鳥羽地区公民館の下鳥羽祭が行われ、同様の作品約120点が飾られた。

両地区の作品は、趣味の域を超える見応えのあるものが多く、また根気よく丹念に仕上げられた手作りの作品に見入った。



絵：加々美 豊
花：コスモス

グループ紹介

十返舎一九に親しむ会 安曇野(豊科)

私たち「十返舎一九に親しむ会安曇野」は、新田地区公民館を主体に平成22年に結成し、その後、安曇野、松本、塩尻の会員を加え、現在約40人で十返舎一九の足跡をたどって紀行し、また歴史の一端を学んでいる。

一九が豊科新田の藤森家を訪問していたことを6年ほど前に知った。文化11年(1814)8月11日に藤森善兵衛が松本の高美書店に滞在していた一九を迎えに行き、養老坂を下り熊倉橋を渡って藤森家へ到着した。

一九は『東海道中膝栗毛』がベストセラーになったことで気を良くして、続編の『続膝栗毛』を書くための取材に藤森家を訪問した



生涯学習センターにて

のだった。善兵衛は高美書店で一九が松本宿から岡田、会田經由で善光寺へ取材に行くことを知り、「新田通り」や「水内橋」を膝栗毛に書かせたくて一九の予定変更をあらかじめ書簡で交していた。

善兵衛の懇請が実現し『続膝栗毛八編』が刊行された。文化13年、その取材で「糸魚川街道とて松本より成相新田それより穂高池田大町新町など続きたる道至って珍しき絶景の地数多あり云々」と文中に記している。あの全国を行脚した一九に安曇野を強く印象づけた。また、取材したことはメモし江戸へ戻って自分の体験、見聞したことをありのまま「弥次喜多」で表現させたとも記している。

そこで我々会員は一九が歩いた街道を『原本』に基づき中山道の本山宿、洗馬宿、善光寺街道の村井宿、松本宿を経て、成相新田宿、池田宿、大町宿まで4回に分けて踏破した。そうすると、文中の挿絵の描写や文言と同じ場所が何箇所かあり感激した。それだけ一九の取材やスケッチが的確だったことがうかがえた。

江戸時代、善兵衛が全国に広めたいほど、また一九が絶賛した安曇野の自然や風俗をもう一度見直し、地域に愛着をもって次世代に継承していけたらと熱望している。

会長 丸山英二 72・2543

古きを尋ねて

②八幡宮 (三郷・小倉)



北小倉の八幡宮は、三郷・北小倉地区の上方、西山山麓、旧小倉城址の麓、鳴沢川のおぜに鎮座している。参道入口正面の鳥居とそとの奥の本殿は東向きに立ち、北小倉、東小倉地区を見守っている。

全国各地に祭られている八幡宮と同じ菅田別尊(応神天皇)を主神に、神明社(天照大御神)秋葉社(火之迦具土神・伊邪那岐、伊邪那美の最後の子)の三神を祭る神社で、本宮は大分県の宇佐神宮で、八幡様と呼ばれ親しまれている。

例大祭は、体育の日に行い、宵祭りから舞台を地区内にえい航す

る。舞台は神敬連(お祭り青年団)が組み立て飾り付ける。平成2年に神敬連会館が新築され、祭典の準備や集会を境内で行えるようになった。

20年ごとに行う「御遷宮」では、鳥居の建て替えや屋根の葺き替えなどの維持管理事業を行っている。八幡宮、白山社、諏訪社の小倉3社は、それぞれの氏子が同じ日に祭典を統一し、地域は秋祭り一色になる。氏子総代と祭りを運営するが、世代が移り、時代考証や歴史継承も難しい現実を迎えている。

創立は「分神状一札之事」によると、文明18年(1486)宇佐八幡宮より小倉の地に分社されたところ(三郷村誌)が、詳細は由緒不詳である。本殿は、現存する棟札から文化9年(1812)に建て替えられたものであると分かる。(東山路)



私は一生懸命



堀金公民館サポート会議委員
牛丸 篤さん (堀金)

私は、堀金公民館サポート会議委員を務めて3年になる。地区公民館の主事を2年、その後、館長を2年、運営委員を2年務めた後、前堀金公民館長の平倉重則氏からの「サポート会議委員をやってくれないか」との誘いで引き受けることになった。

現在、委員は男性2人、女性1人である。

委員の役割は、地域の公民館行事の運営についての検討会議、各行事の準備、当日の運営サポートなど。サポート会議は、毎月第1月曜日の夜に開催している。

準備運営に関わる行事としては、6月に公民館関係者研修会、7月にみんなでスポーツin常念、10月に堀金地域市民運動会、文化祭、芸能祭、堀金一周駅伝大会、2月に冬期スポーツ大会などがある。

公民館関係者研修会では、参加者が5グループに分かれ、各グル

ープで公民館の運営に対し自由に意見交換ができるようにサポートしている。

みんなでスポーツin常念は、大人と子どもでチームを組んで気軽に楽しめる軽スポーツ大会である。午前中の半日の行事ではあるが、参加者が楽しく過ごせるように努めている。

文化祭の会場準備では、出展者の展示物を会場を訪れる方が楽しめるようにパネルの配置をしている。

堀金一周駅伝大会では、スタート前に広報車で地区内への広報、コースの確認を行い、駅伝スタート後は、後続車で交通整理、選手的安全状況を確認している。

冬期スポーツ大会では、地区対抗戦のため、試合の審判を行って得点を付け管理を行っている。今後も地域の和、絆、健康のため、公民館活動を大事にして明日の力にしていきたい。



地区公民館だより

新屋地区公民館(穂高)

新屋地区は、有明地域のほぼ中央に位置し、750戸余りと1800人余りの連帯感と活力に恵まれ、高齢者も幼少児の声も響き合う里である。

公民館は、昭和26年に建築され、平成24年に有形文化財に指定された。伝統を生かし少子高齢化時代の絆を紡ぐため公民館活動目標を「年代を超えた交流で知恵や伝統文化を引き継ぎ育てる場作り」と捉えて知恵を集め活動している。

主な行事は、こどもの日祭典祭、常会対抗マレットゴルフ大会、市民納涼祭への踊り連参加、敬老会、区文化祭の準備、人権学習会、しめ縄作り講習会などがある。区各団体に連携支援をいただき活発に推進できる伝統に感謝している。

公民館対抗バレーボール大会では、5連覇も達成した。楽しみながら結果を出す親たちを誇りに思つた子どもたちの連帯感も育めた。

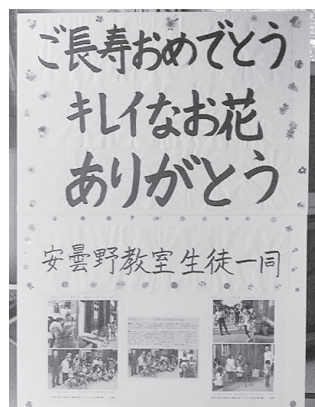
本年の敬老会には、公民館の渡り廊下の段差解消のため廃材を集

樺

収穫の秋は、旬の味を運んできてくれる。また、日常研さんを積み上げてきた趣味ともいえない本格的な作品(絵画)。

め、既設のすのこ板をかさ上げし、移動しやすく再利用可能な仮設バリアフリー環境を実現した。文化財を生かす手仕事に役員は一丸となった。

本年は、地区老人会と協力して、公民館を利用する安曇野教室の児童と共に軒先に花苗を定植した。



祖父母との同居経験の少ない子どもたちに老人会の面々は花植えや水やりの勘所を伝授した。敬老会には「水やり隊」の子どもたちから、祝辞・謝辞の書が届けられ、年代を超える交流が始まった。

(新屋地区公民館長 古川政明)

書道・舞踊・詩吟・工作・・・)、スポーツなどが、それぞれの発表の場で、私たちを興奮させてくれる。楽しみである。(Y・U)